



平成20年9月29日

各 位

会社名 株式会社 サンワドー
(URL <http://www.sanwado.com>)
代表者名 代表取締役社長 中村 勝弘
(JASDAQ コード番号: 7430)
問合せ先 常務取締役管理本部長 葛西 昭蔵
電話番号 (017) 782-3200

平成21年2月期中間(連結・個別)業績予想との差異及び 通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年2月期(平成20年2月21日～平成21年2月20日)の業績予想について、平成20年4月10日付当社「平成20年2月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成21年2月期 連結業績予想数値の修正等

(1) 中間期(平成20年2月21日～平成20年8月20日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	14,250	180	140	70
今回修正(B)	14,550	100	75	△55
増減額(B-A)	300	△80	△65	△125
増減率(%)	2.1%	△44.4%	△46.4%	—

(2) 通期(平成20年2月21日～平成21年2月20日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	28,500	340	250	120
今回修正(B)	29,300	270	260	30
増減額(B-A)	800	△70	10	△90
増減率(%)	2.8%	△20.6%	4.0%	△75.0%

(3) ご参考:前期の実績(平成19年2月21日～平成20年2月20日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(2/21～8/20)	15,048	193	162	△43
通期(2/21～2/20)	29,798	321	286	51

2. 平成 21 年 2 月期 個別業績予想数値の修正等

(1) 中間期 (平成 20 年 2 月 21 日～平成 20 年 8 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	13,330	155	140	70
今回修正 (B)	13,670	80	80	△50
増減額 (B-A)	340	△75	△60	△120
増減率 (%)	2.6%	△48.4%	△42.9%	—

(2) 通期 (平成 20 年 2 月 21 日～平成 21 年 2 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	26,500	255	210	100
今回修正 (B)	27,300	240	230	20
増減額 (B-A)	800	△15	20	△80
増減率 (%)	3.0%	△5.9%	9.5%	△80.0%

(3) ご参考：前期の実績 (平成 19 年 2 月 21 日～平成 20 年 2 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期 (2/21～8/20)	14,154	172	164	△43
通期 (2/21～2/20)	27,855	227	238	29

3. 連結業績予想の修正理由

当中間連結会計期間における連結業績予想の修正理由は次のとおりであります。

(1) 売上高の修正

売上高においては、当初予想では個人消費の低迷と競争激化による影響を受けるものと、厳しい見方をしておりましたが、食品部門が中国餃子問題の落ちつきと、飲料の好調持続によって盛り返しました。また、ペット&グリーン部門で園芸用品の品揃え強化が奏功した結果、14,550 百万円 (300 百万円増) となります。

(2) 粗利率の低下

当中間連結会計期間中、ガソリン価格、食料品価格などの値上げの浸透によって、個人消費が低迷し、加えて競争激化が加速しました。また、仕入原価の上昇分を販売価格に転嫁できない状況も発生しました。全体的に粗利率を押し下げる結果となり、前回予想比 1.3%、前中間連結会計期間比 0.7%、それぞれ下回り、目標とした粗利率の確保に至りませんでした。

(3) 販管費圧縮幅の減少

粗利率の低下による利益面への影響をカバーするため、販管費の圧縮に努め、人件費、広告宣伝費を中心に削減しましたが、水道光熱費、不動産賃借料などの増加した費用もあり、計画通りの圧縮とならず、営業利益、経常利益とも当初計画を下回る結果となりました。

(4) 投資有価証券の減損処理

株価の低迷によって当社保有の投資有価証券のうち、時価が著しく低下したものがあり、95 百万円特別損失として減損処理いたしました。

[平成 20 年 9 月 11 日付「特別損失 (平成 21 年 2 月期中間期末の投資有価証券評価損) に関するお知らせ」をご参照下さい]

この結果、当期純損失は 55 百万円となります。

通期につきましても、引続き個人消費の回復は望めない中で、さらなる競争激化が進むものと予想されます。下期においては、カー用品、除雪用品、作業用品等を中心とする季節用品の商品政策を折り込んだ結果、業績予想は、売上高 29,300 百万円（800 百万円増）、営業利益 270 百万円（70 百万円減）、経常利益 260 百万円（10 百万円増）、当期純利益 30 百万円（90 百万円減）に修正いたします。

4. 個別業績予想の修正理由

個別業績予想につきましては、連結業績予想に係る内容と同一のため、記載を省略いたします。

(注) 当資料に記載の通期の業績予想等につきましては、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画、予測したものであり、実際の業績等は、今後の様々な条件、要素により当資料の見通しとは異なる結果となる可能性があります。

以上